

# ごみ焼却場の

## 移転先の行方と課題は



櫻谷 千重子 議員

海部郡6町長申し合わせ書で、当時の6町長の名前と印鑑が捺されている。「現在のゴミ焼却場建設30年経過するまでに、牟岐町以外の新たな場所で建設計画を決定すること」また、「上記事項が実施できない場合、新たに生じる現在の施設維持建設工事の負担割合は、牟岐町に配慮して決定すること」とある。すでに37年経過し、この公文書の重みをどのように受け止め両町の話し合いはどうなっているのか、今の場所に続けて建て替えとなれば、これまで約40年、これから40年近く人生で言えば一生に

至るまでの長い年月、迷惑施設を抱え込むわが牟岐町となる。

近隣住民の反対もあるとのこと、37年の長い年月の中で、漁場の影響も考え、まずは町民の健康のことを第一に考えれば、ごみ焼却場の受け入れを拒否すべきと考える。

### 答 福井町長

現地での改築を実施したい旨、周辺地域の方々に説明した。参加者から反対があったこと、議会でも反対の意見があったことから、両町に可能な場所を探して欲しい旨、要望していたが、良い返事はなかった。牟岐町にごみ焼却場があれば、発電を兼ねた施設、あるいは、銭湯などの保養施設として建設したいと考えている。

# 海部老人ホーム

## 民間委託の進捗状況は

### 質 櫻谷議員

海部老人ホームは、低所得者にとって、なくてはならない施設です。負担額は3町各々いくらなのか、民営化すればどれぐらいの削減が予想されるのか。町長は民営化すると明言しているが、未だ形が見えていない。町長の任期2年余りの間でできるのか。

### 答 福井町長

3町で5350万円、牟岐町で1370万円負担している。民営化しても負担額が、そのまま減額されるものではないが、雇用形態として適切とは言えない状況にあると認識している。他市町村では多くの老人施設が民営化している中で行政事務の効率化、介護サ-



海部老人ホームの日常風景

ビスの向上、コスト削減等の観点から民営化はやむを得ないと考えている。

### 認知症オレンジ サポーター会の設立を

### 質 櫻谷議員

高齢化が進む中、人口の3割の方が認知症になっていると言っても過言ではない。国や県は認知症の理解を広域に進め、オレンジライセンスの増員を図っているが、これを活用する組織が未だできていない。牟岐町総合戦略の中、あるいは、地方創生の枠の中にも、オレンジサポーターの組織づくりの第一歩を進めて頂きたい。

### 答 久岡健康生活課長

高齢者の5人に1人が認知症になると推定する中、高齢化の進む牟岐町でも、これからの重要課題であることは間違いない。新総合事業の動向を見据え連携という形を含め検討していく。

# 一 般 質 問